Express5800/MW300g,MW500g (N8100-1559,1560) パッチ適用手順書

本書は、Express5800/MW300g,MW500g(N8100-1559,N8100-1560)の運用/管理者を対象にした、パッチ適用に関する手順書です。
（Management Consoleの使用方法は、マニュアルなどをご参照下さい）

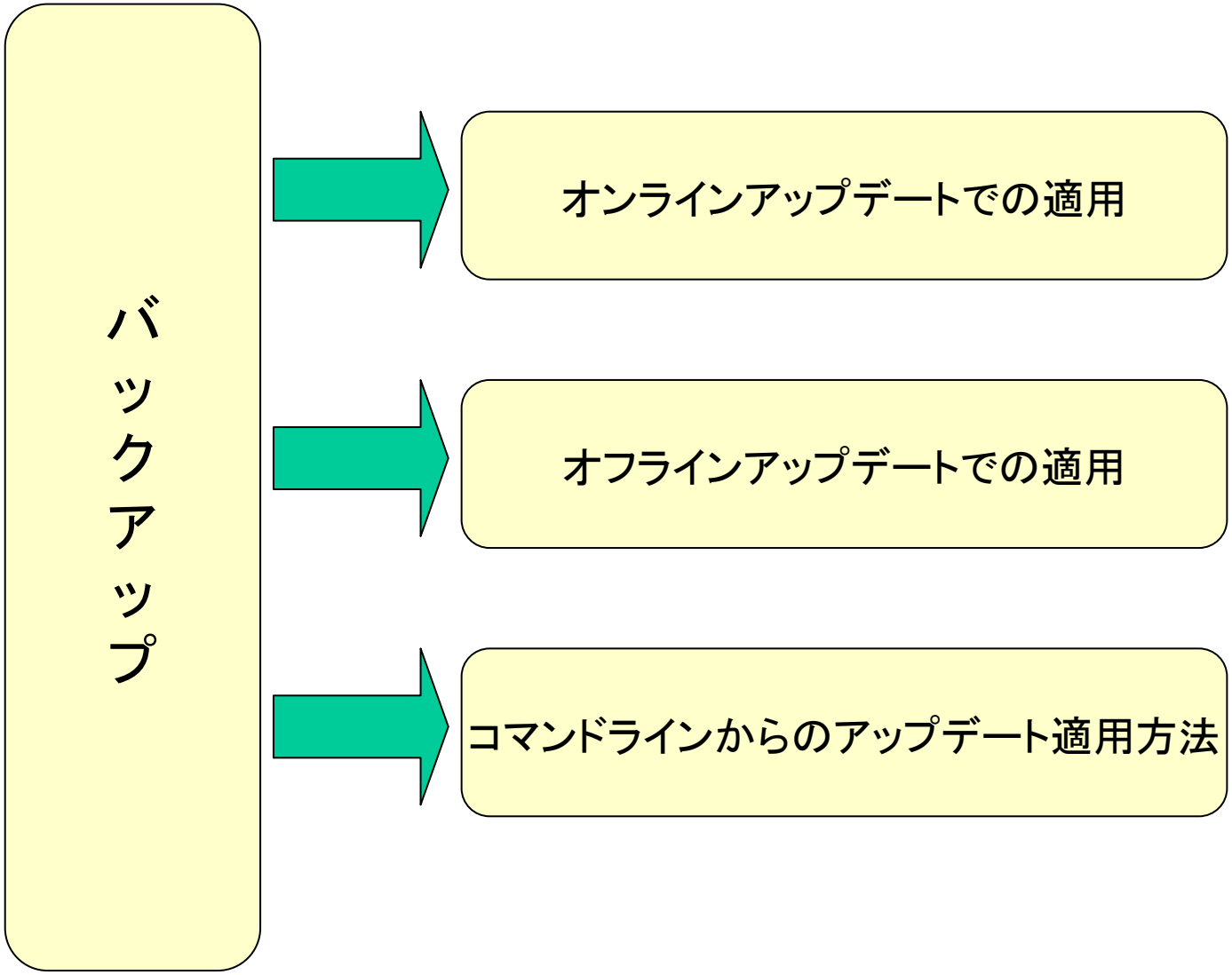
2010/3/2　第1版

NEC

目次

・パッチ適用の基本手順 ・・・・・ 3
・アップデートモジュール適用時の注意・制限事項 ・・・・・ 4
・オンラインアップデートでの適用 ・・・・・ 7
・オフラインアップデートでの適用 ・・・・・ 12
・コマンドラインからのアップデート適用 ・・・・・ 17
・RPMパッケージの適用方法 ・・・・・ 21
・参考資料
バックアップ手順 ・・・・・ 27
バックアップ例１：Windowsマシンへの定期バックアップ ・・・・・ 28
バックアップ例２：Windowsマシンへの即時バックアップ ・・・・・ 30
バックアップ例３：テープデバイスへの定期バックアップ ・・・・・ 32
バックアップ例４：テープデバイスへの即時バックアップ ・・・・・ 34
バックアップの補足事項 ・・・・・ 37

パッチ適用の基本手順


バックアップ
オンラインアップデートでの適用
オフラインアップデートでの適用
コマンドラインからのアップデート適用方法

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(1/3)

(1)共通の注意、制限事項

・アップデートモジュールは、必ず、公開された順番で適用して下さい。
・すべてのアップデートモジュールを適用した後に再起動が必要になります。

(2)ロードバランスクラスタ構成での注意・制限事項

・マスタ、スレーブの順で、すべての本装置へ適用して下さい。
・マスタへの適用前に、マスタのManagement Consoleに接続し、
システム＞ロードバランス 画面にて、ミラーリング間隔に ”NO”を設定して
下さい。
・適用前に、サービス画面の[停止]ボタンにて、各種サービスを停止して下さい。
※TELNET、FTP、サービス監視(chksvc)サービス以外のサービスについては、
再起動により、元の起動状態に戻ります。
・適用後に、マスタから先にシステムの再起動を行って下さい。
スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。
・すべての本装置へアップデートモジュールを適用した後に、
システム＞ロードバランス画面にて、ミラーリング間隔を設定して下さい。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(2/3)

(3)フェイルオーバクラスタ構成での注意・制限事項

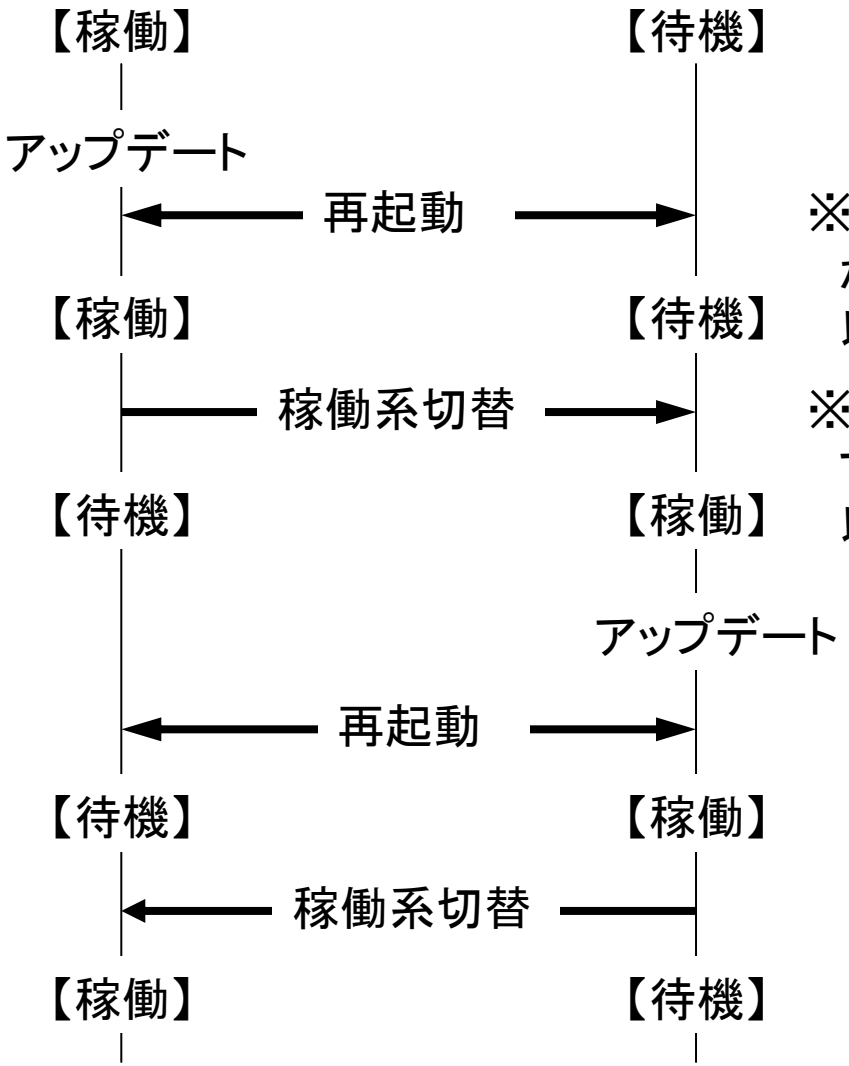
・アップデートモジュールは、稼動系の状態でのみ適用可能です。待機系サーバへ適用する場合は、一旦、系の切り替えを行い、稼働系にした後、適用を行って下さい。

・オンラインアップデートで適用する場合は、適用後に、稼動系サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。
コマンドで適用する場合は、すべてのアップデートモジュールを適用した後に、稼働系サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。
どちらの場合も、CLUSTERPRO　Webマネージャから再起動を行って下さい。
なお、稼働系サーバを再起動する際、同時に待機系サーバも再起動して下さい。

フェイルオーバクラスタ構成時の適用イメージは、次ページのとおりです。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(3/3)

※フェイルオーバクラスタ構成時の適用イメージ

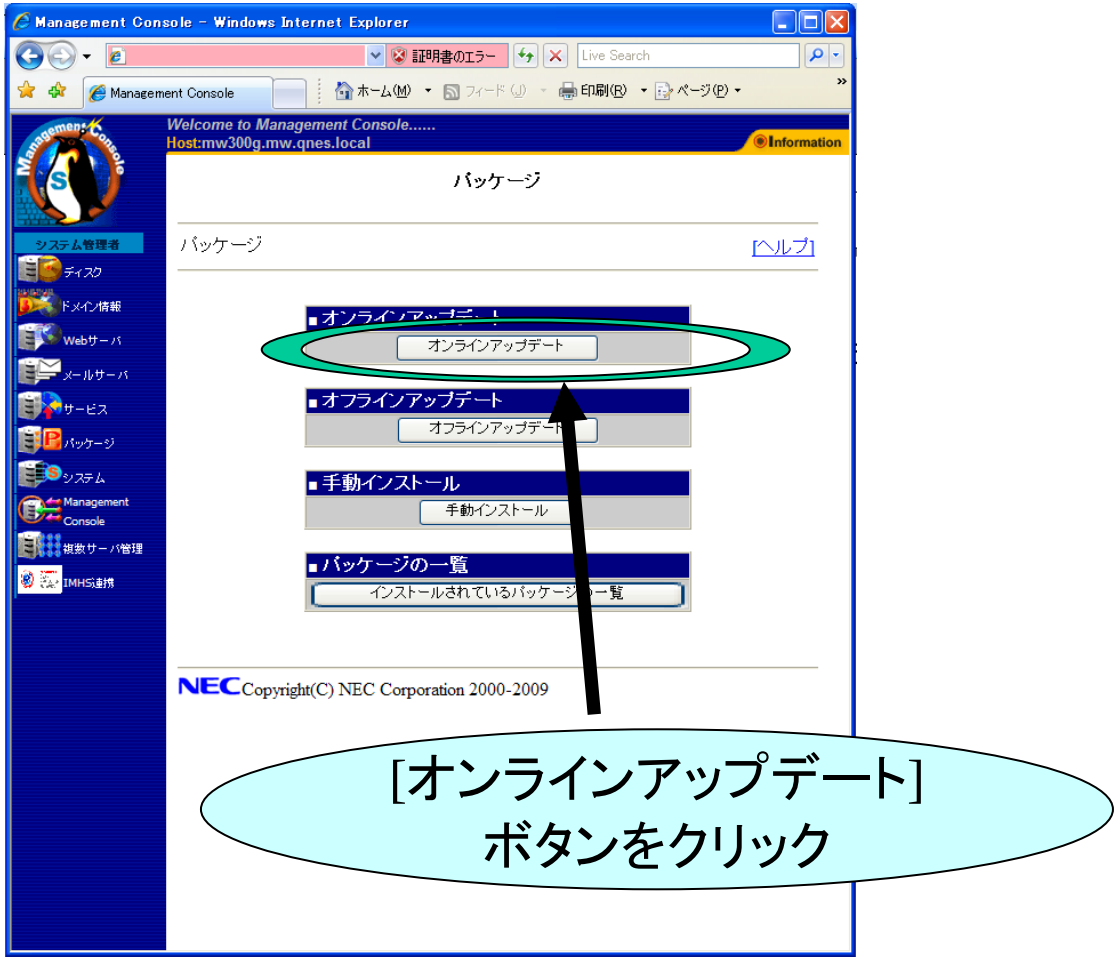


※再起動は、CLUSTERPRO Webマネージャから「クラスタシャットダウン」で行います。
以降も同様です。

※稼働系の切替は、CLUSTERPRO Webマネージャから行います。
以降も同様です。

オンラインアップデートでの適用(1/5)

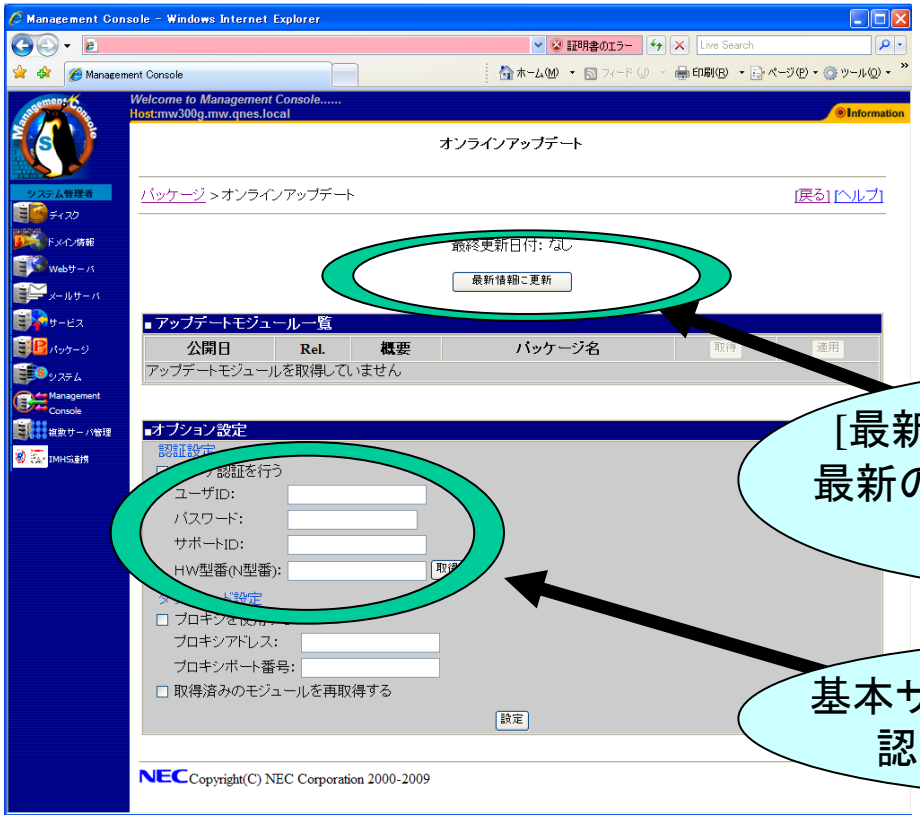
オンラインアップデートは、本装置に必要なアップデートをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し適用します。
Management Console でパッケージをクリックし、[オンラインアップデート]の[オンラインアップデート]ボタンをクリックして下さい。



オンラインアップデートでの適用(2/5)

初めてオンラインアップデートを利用する場合、[オプション設定]欄の[認証設定]項目 [ユーザ認証を行う]をチェックし、基本サポートサービスのサポート契約の認証情報の入力後、[設定]ボタンをクリックして下さい。次に、[最新情報に更新]ボタンをクリックして下さい。

なお、公開アップデートの内、セキュリティ、および、不具合修正に関するものは、サポートのご契約がないお客様も適用が可能です。[最新情報に更新]ボタンをクリックして下さい。



[最新情報の更新]ボタンを押し最新のアップデート情報に更新を行って下さい。

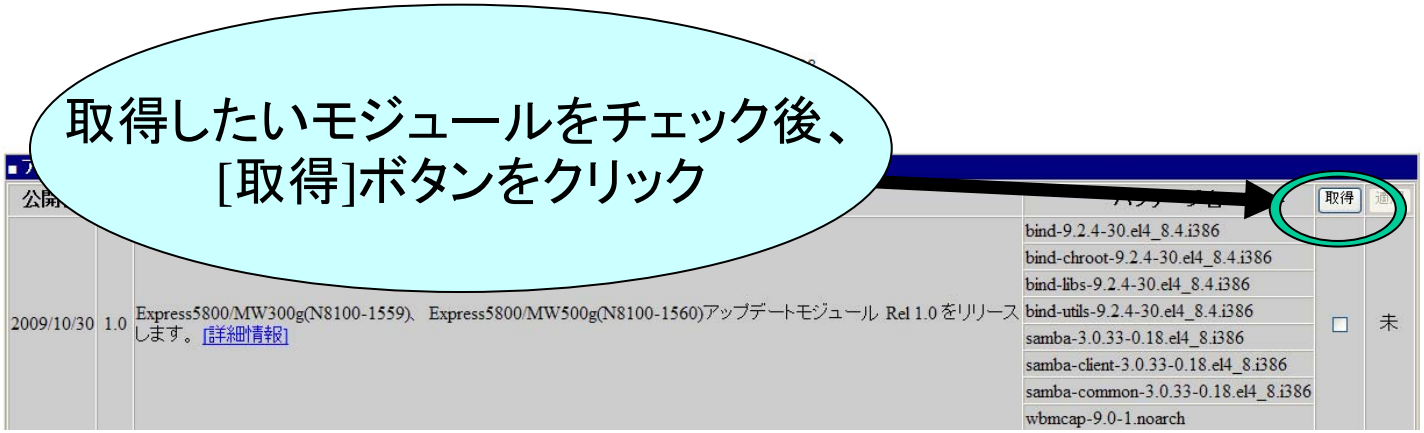
基本サポート契約がある場合は、認証設定を行って下さい。

オンラインアップデートでの適用(3/5)

ネットワーク経由で取得した公開モジュール情報から適用可能なアップデートモジュールの一覧を表示します。未適用のモジュールには「適用」欄に「未」と表示されます。

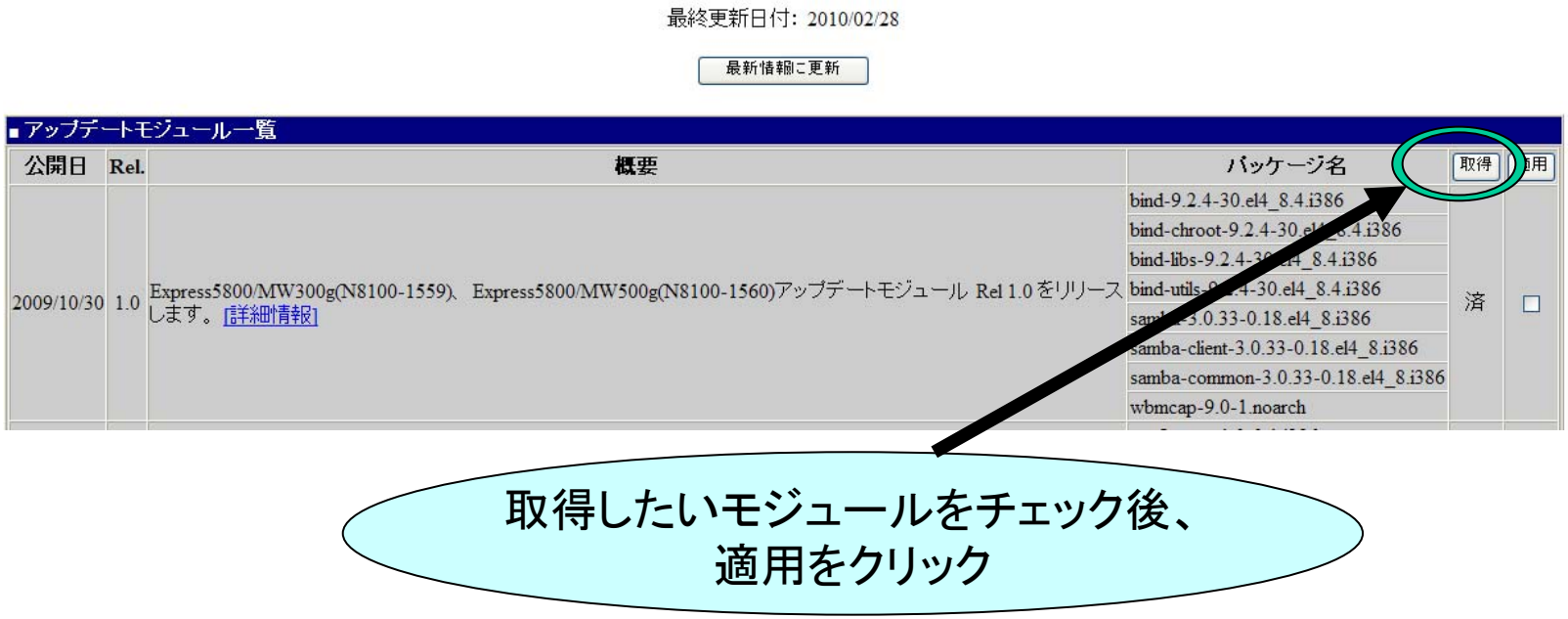
始めに、アップデートのモジュールの取得を行って下さい。取得したいバージョンの[取得]欄のチェックボックスをチェックし、[取得]ボタンをクリックして下さい。チェックしたアップデートバージョンを含み、適用に必要なアップデートバージョンはすべて自動的に取得します。

取得が完了すると[取得]欄が「済」と表示されます。



オンラインアップデートでの適用(4/5)

次に、アップデートを適用するバージョンの[適用]欄のチェックボックスをチェックし、[適用]ボタンをクリックして下さい。チェックしたアップデートバージョンを含み、適用に必要なアップデートバージョンはすべて自動的に適用します。



取得したいモジュールをチェック後、
適用をクリック

オンラインアップデートでの適用(5/5)

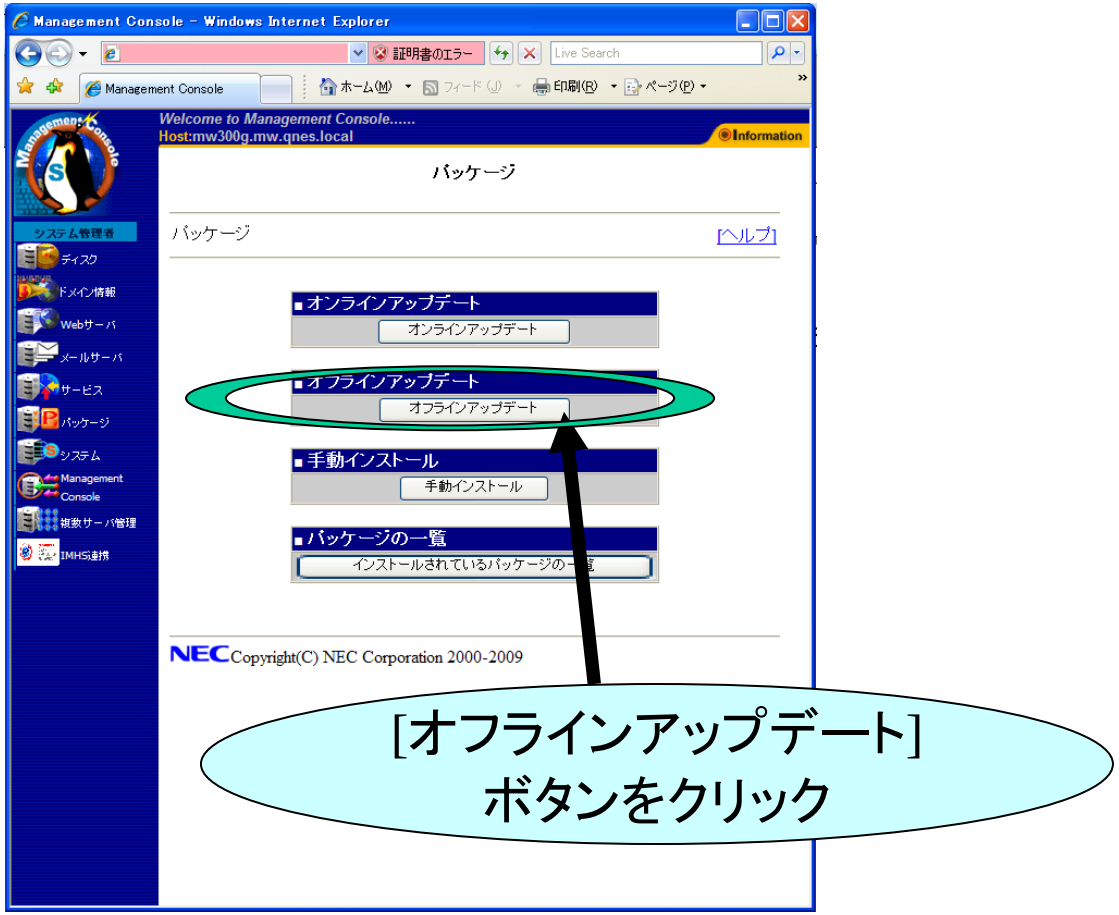
アップデートモジュールは、システムを再起動することにより適用されます。
Management Consoleからシステムを再起動して下さい。

ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先にシステムを再起動して下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。

フェイルオーバクラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャの「クラスタシャットダウン」でシステムを再起動して下さい。
「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPROの
「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

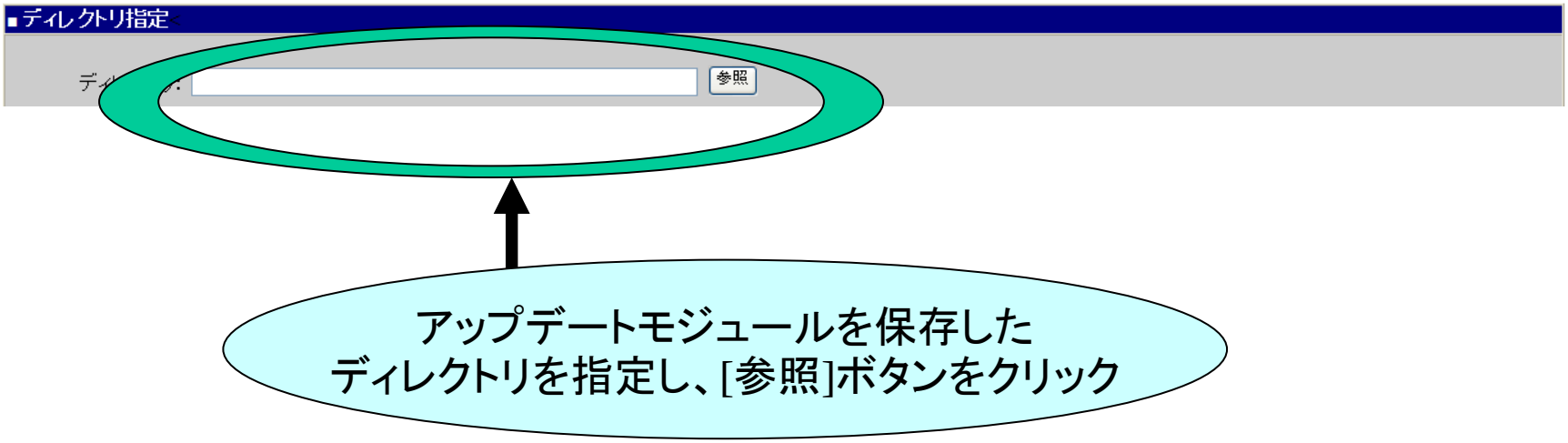
オフラインアップデートでの適用(1/5)

オフラインアップデートは、予め取得しておいたアップデートモジュールを、Management Consoleより適用します。
Management Console でパッケージをクリックし、[オンラインアップデート]の[オフラインアップデート]ボタンをクリックして下さい。



オフラインアップデートでの適用(2/5)

[■ディレクトリ指定]欄の[ディレクトリ]に、アップデートモジュールを保存しているディレクトリを指定し、[参照]ボタンをクリックして下さい。
アップデートモジュールは、アップデート公開サイトからダウンロードした‘tgz’形式の状態で保存しておいて下さい。



※ アップデートモジュールの適用は、必ず公開されたものすべてを古い順番で適用して下さい。

オフラインアップデートでの適用(3/5)

指定したディレクトリに含まれるアップデートモジュールの一覧が表示されます。
アップデートを行うモジュールの[格納]欄のチェックボックスをチェックし、[格納]ボタンをクリックして下さい。

■ディレクトリ指定

ディレクトリ: /home/users/admin/ 参照

■指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧

公開日	Rel.	概要	パッケージ名	格納
2010/3/2	1.2	Express5800/MW300g(N8100-1559)、Express5800/MW500g(N8100-1560)アップデートモジュール Rel 1.2 をリリースします。	bind-libs-9.2.4-30.el4_8.5.i386 wbmchttpd-2.0.52-41.ent.6.i386 php-odbc-4.3.9-3.29.i386 php-imap-4.3.9-3.29.i386 httpd-2.0.52-41.ent.6.i386 net-snmp-libs-5.1.2-18.el4_8.1.i386 webmail-x-4.0.17-1.i386 php-mbstring-4.3.9-3.29.i386 wbmchttpd-mod_ssl-2.0.52-41.ent.6.i386 samba-3.0.33-0.18.el4_8.1.i386 mod_ssl-2.0.52-41.ent.6.i386 php-4.3.9-3.29.i386 httpd-suexec-2.0.52-41.ent.6.i386 bind-utils-9.2.4-30.el4_8.5.i386 bind-chroot-9.2.4-30.el4_8.5.i386 webmail-httpd-mod_ssl-2.0.52-41.ent.6.i386 bind-9.2.4-30.el4_8.5.i386 samba-client-3.0.33-0.18.el4_8.1.i386 php-pgsql-4.3.9-3.29.i386 net-snmp-devel-5.1.2-18.el4_8.1.i386 webmail-httpd-suexec-2.0.52-41.ent.6.i386 samba-common-3.0.33-0.18.el4_8.1.i386 php-pear-4.3.9-3.29.i386 config-mw-1.0-0.2.i386 net-snmp-5.1.2-18.el4_8.1.i386 net-snmp-perl-5.1.2-18.el4_8.1.i386 php-ldap-4.3.9-3.29.i386 ...noarch ...ent.6.i386	☐

格納したいモジュールをチェック後、
[格納]ボタンをクリック

オフラインアップデートでの適用(4/5)

格納後、[■アップデートモジュール一覧]画面に、格納したアップデートモジュールが表示されます。適用を行うアップデートモジュールの[適用]欄のチェックボックスをチェックし、[適用]ボタンをクリックして下さい。

■ アップデートモジュール一覧

公開日	Rel.	概要	パッケージ名	取込状態	適用
2010/3/2	1.2	Express5800/MW300g(N8100-1559)、Express5800/MW500g(N8100-1560)アップデートモジュール Rel 1.2 をリリースします。[詳細情報]	bind-9.2.4-30.el4_8.5.i386 bind-chroot-9.2.4-30.el4_8.5.i386 bind-libs-9.2.4-30.el4_8.5.i386 bind-utils-9.2.4-30.el4_8.5.i386 config-mw-1.0-0.2.i386 httpd-2.0.52-41.ent.6.i386 httpd-suexec-2.0.52-41.ent.6.i38 mod_ssl-2.0.52-41.ent.6.i386 net-snmp-5.1.2-18.el4_8.1.i386 net-snmp-devel-5.1.2-18.el4_8.1.i386 net-snmp-libs-5.1.2-18.el4_8.1.i386 net-snmp-perl-5.1.2-18.el4_8.1.i386 php-4.3.9-3.29.i386 php-imap-4.3.9-3.29.i386 php-ldap-4.3.9-3.29.i386 php-mbstring-4.3.9-3.29.i386 php-odbc-4.3.9-3.29.i386 php-pear-4.3.9-3.29.i386 php-pgsql-4.3.9-3.29.i386 samba-3.0.33-0.18.el4_8.1.i386 samba-client-3.0.33-0.18.el4_8.1.i386 samba-common-3.0.33-0.18.el4_8.1.i386 wbmcap-9.0-4.noarch wbmchttpd-2.0.52-41.ent.6.i386 wbmchttpd-mod_ssl-2.0.52-41.ent.6.i386 webmail-httpd-2.0.52-41.ent.6.i386 webmail-mod_ssl-2.0.52-	済	□

適用したいモジュールをチェック後、
[適用]ボタンをクリック

オフラインアップデートでの適用(5/5)

アップデートモジュールは、システムを再起動することにより適用されます。
Management Consoleからシステムを再起動して下さい。

ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先にシステムを再起動して下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。

フェイルオーバクラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャの「クラスタシャットダウン」でシステムを再起動して下さい。
「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPROの
「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

コマンドラインからのアップデート適用(1/4)

アップデートをManagementConsoleから実施せず、コマンドラインから行います。

適用するアップデートモジュールを予め本装置に保存し、コマンドを実行して適用します。

※本手順では、ダウンロードしたアップデートモジュールは、本装置の /tmp ディレクトリにあるものとします。/tmp 以外にアップデートモジュールを保存した場合は、保存したディレクトリ に読み替えて下さい。

(1) 本装置に telnet (login 名 : admin) でログインして下さい。
フェイルオーバクラスタ構成の場合は、稼働系サーバに ログインして下さい。
ログイン後、su コマンドで root 権限を取得して下さい。

コマンドラインからのアップデート適用(2/4)

(2) /tmpディレクトリに移動し、以下のコマンドでアップデートモジュールを展開して下さい。

```
# cd /tmp/
# tar  -xzf  アップデートモジュールファイル名
```

(3) /tmpディレクトリ配下に以下のディレクトリが作成されます。

N8100-1559_N8100-1560_UpdateModule-[アップデートバージョン番号]

(3) ディレクトリを移動します。

```
# cd  /tmp/N8100-1559_N8100-1560_UpdateModule-[アップデートバージョン番号]/command
```

(4) サービスの停止

Management Console の[サービス]画面から telnet 以外のすべてのサービスを停止して下さい。
ただし、**フェイルオーバクラスタ構成**の場合は、**クラスタプロ（CLUSTERPRO X）**サービスは**停止しないで**下さい。

コマンドラインからのアップデート適用(3/4)

(5) アップデートモジュールの適用
各ディレクトリ配下にて以下のコマンドを実行します。

```
# perl  MailWebServer_UpdateModule.pl
```

※ コマンドの実行は、telnet から root 権限で行って下さい。コマンドを実行するとパッケージがインストールされます。
アップデートモジュールの適用は、必ず公開された順番で行って下さい。

(6) システムの再起動
すべてのアップデートモジュールを適用した後に、システムを再起動して下さい。

ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先に再起動を行って下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。

フェイルオーバクラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行って下さい。
「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPRO の「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

コマンドラインからのアップデート適用(4/4)

(7) 稼働系切替（フェイルオーバクラスタ構成時）
フェイルオーバクラスタ構成以外の場合は、(8)に進んで下さい。

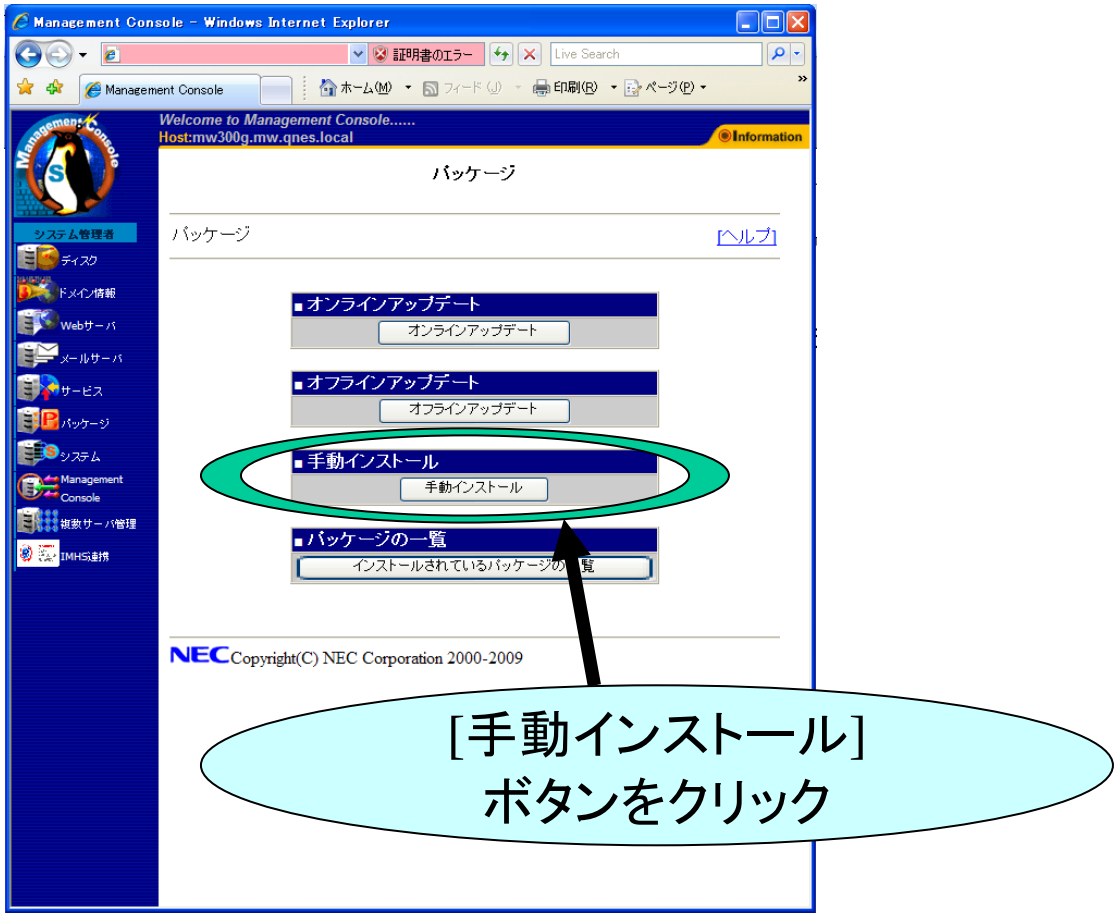
CLUSTERPRO Webマネージャ にて稼働系の切り替えを行って下さい。
切替後の稼働系サーバにて、(1)～(6)の作業を行って下さい。
(1)～(6)を実施後、再度、稼働系の切り替えを行って下さい。

(8) サービスの起動
Management Console の[サービス]画面からサービスを必要に応じて起動して下さい。

RPMパッケージの適用方法 (1/5)

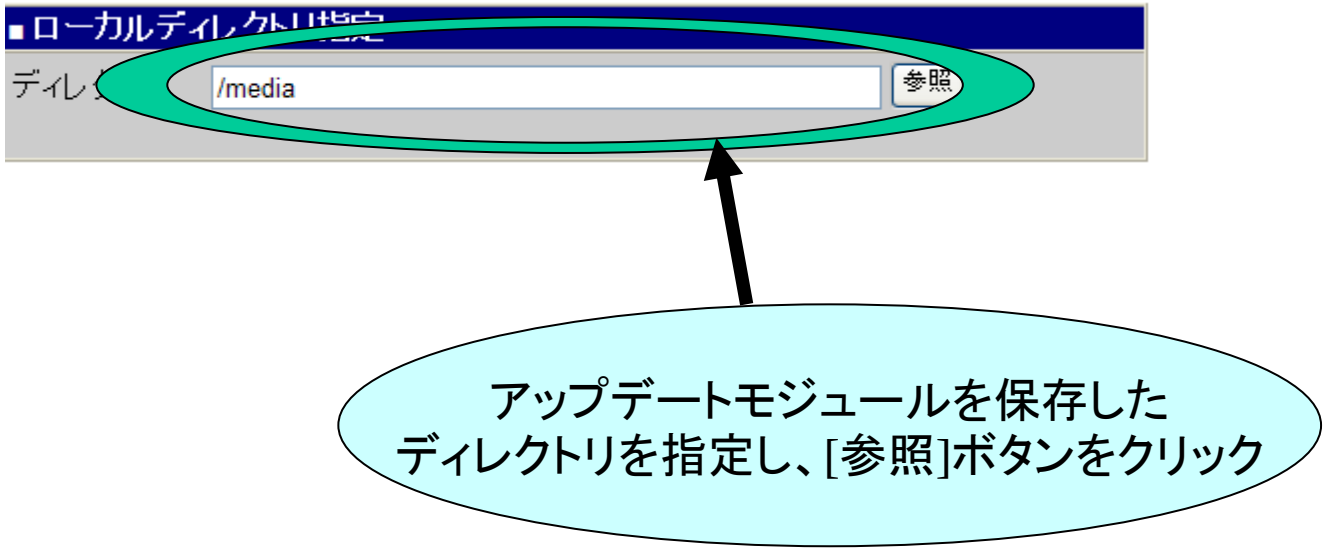
RPMパッケージの適用は、予め取得しておいたRPMパッケージを、Management Consoleより適用します。

(1) Management Console でパッケージをクリックし、[手動インストール]の[手動インストール]ボタンをクリックして下さい。



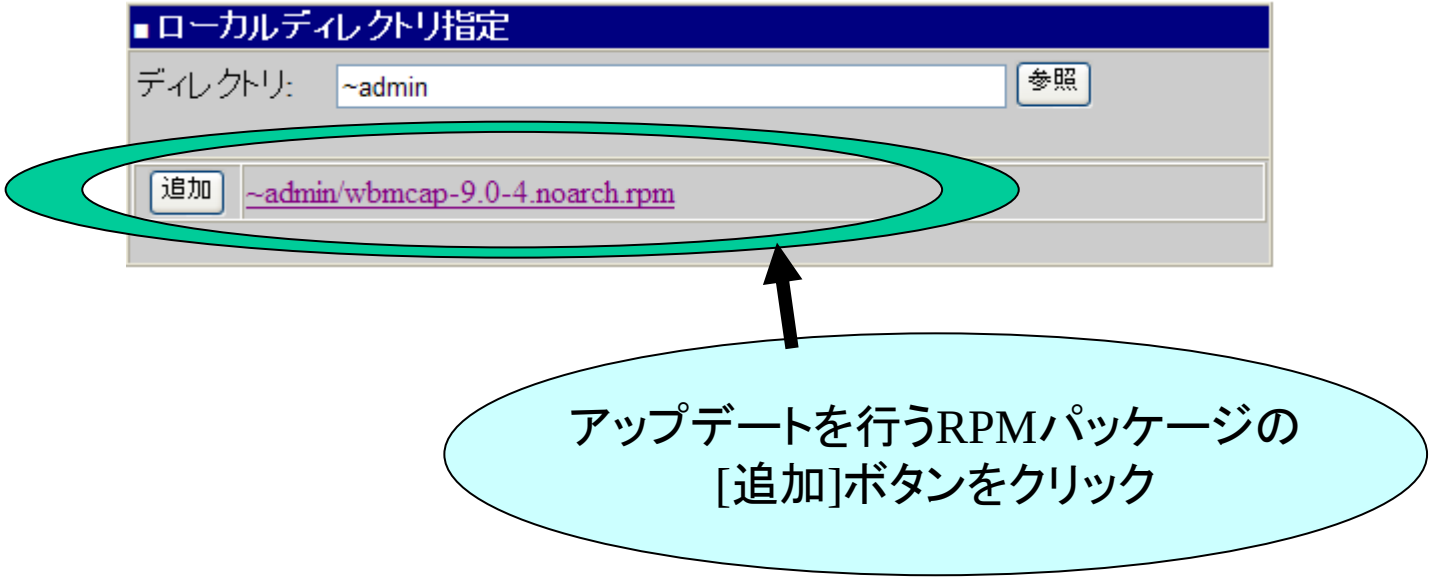
RPMパッケージの適用方法 (2/5)

(2) [■ローカルディレクトリ指定]欄の[ディレクトリ]に、RPMパッケージを保存しているディレクトリを指定し、[参照]ボタンをクリックして下さい。
アップデートモジュールは、アップデート公開サイトからダウンロードした‘rpm’形式の状態で保存しておいて下さい。



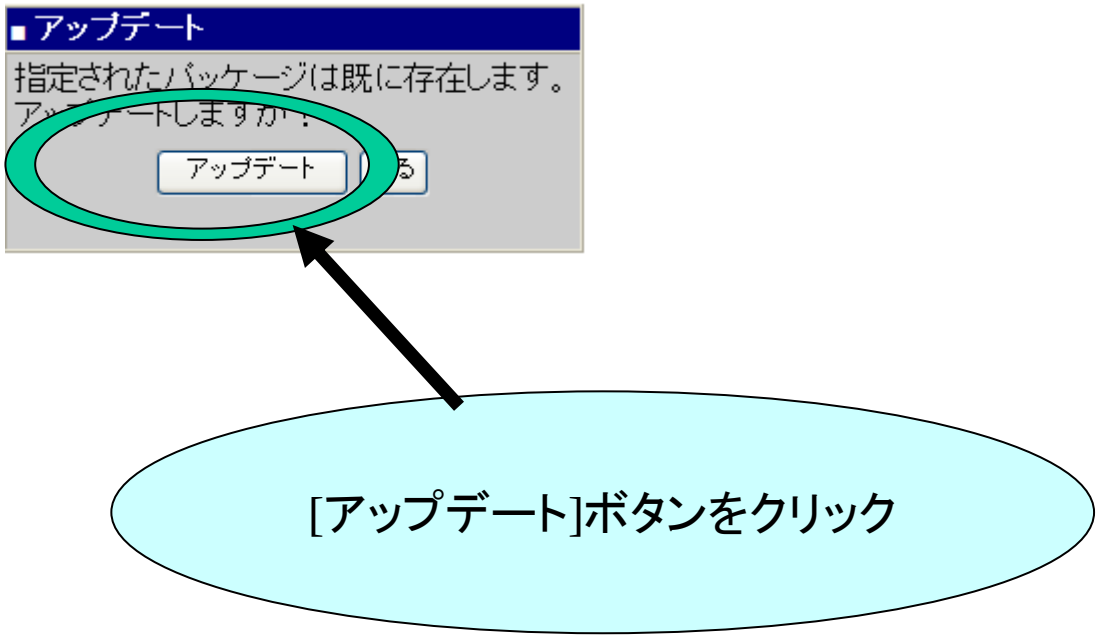
RPMパッケージの適用方法 (3/5)

(3) 指定したディレクトリに含まれるアップデートモジュールの一覧が表示されます。アップデートを行うRPMパッケージの[追加]ボタンをクリックして下さい。



RPMパッケージの適用方法 (4/5)

(4) アップデート確認画面が表示されます。[アップデート]ボタンをクリックし、アップデートを実行します。



RPMパッケージの適用方法 (5/5)

(5) すべてのRPMパッケージを適用した後に、システムを再起動して下さい。

ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先に再起動して下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。

フェイルオーバクラスタ構成の場合は、必ずCLUSTERPRO Webマネージャから「クラスタシャットダウン」で再起動して下さい。「クラスタシャットダウン」の方については、CLUSTERPRO の「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

(6) 稼働系切替（フェイルオーバクラスタ構成時）
フェイルオーバクラスタ構成以外の場合は、(7)に進んで下さい。

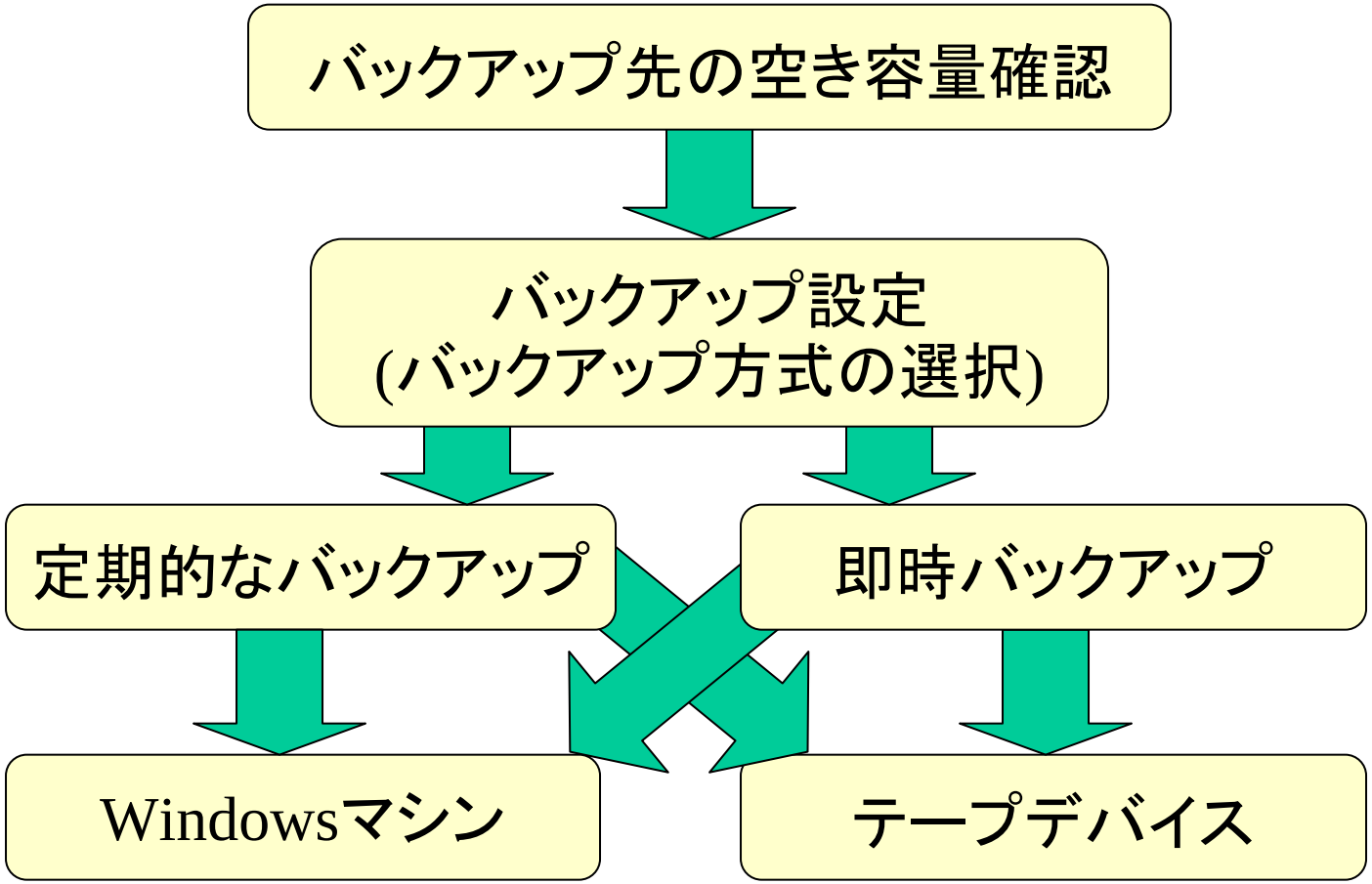
CLUSTERPRO Webマネージャ にて稼働系の切り替えを行って下さい。切替後の稼働系サーバにて、(1)～(6)の作業を行って下さい。(1)～(6)を実施後、再度、稼働系の切り替えを行って下さい。

(7) サービスの起動
Management Console の[サービス]画面からサービスを必要に応じて起動して下さい。

参考資料

アップデートモジュールを適用する前に、バックアップを行って頂く必要があります。アップデートモジュール適用後に何らかの問題が発生し、アップデートモジュール適用前の状態に戻すこととなった場合、システムの再インストールおよびバックアップデータのリストアを行う必要があるため、必ず、バックアップを行って下さい。また、バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前にアップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいて下さい。次ページ以降を参考に、運用形態に合った方法でバックアップを行って下さい。バックアップについては、ユーザーズガイド、Management Console のヘルプにも詳しい説明がございますので、本手順書と合わせて参照して下さい。

バックアップ手順


バックアップ先の空き容量確認
バックアップ設定
(バックアップ方式の選択)
定期的なバックアップ
即時バックアップ
Windowsマシン
テープデバイス

バックアップ例１：Windowsマシンへの定期バックアップ（1/2）

１．Windows マシンの共有フォルダの作成

例：ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc 」上に「user 」というユーザーを用意し、「share 」という共有フォルダを作成する。

２．Management Consoleによる設定（1/2）

Management Consoleで以下の順にクリックして下さい。

①
システム

②
バックアップ／リストア

③
編集

バックアップ例１：Windowsマシンへの定期バックアップ（2/2）

２．Management Consoleによる設定（2/2）

以下の内容を入力して下さい。

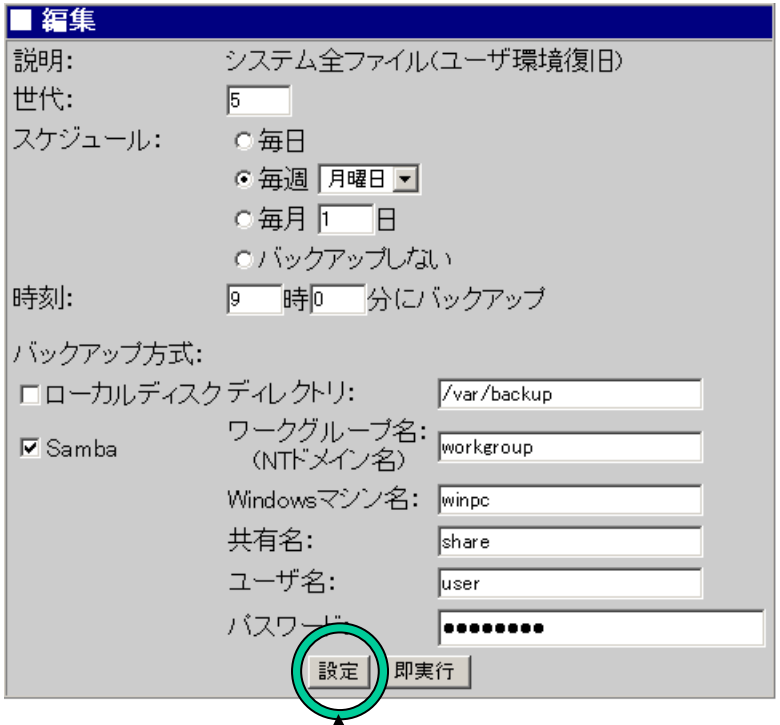
■世代・スケジュールの設定

例：毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。バックアップファイルは5 世代分残す。

■Windowsマシンの設定

「Samba」をチェックし、Windowsマシンに接続するための設定を行う。

例：ワークグループ名「workgroup」、マシン名「winpc」、共有名「share」、ユーザ名「user」、パスワード「********」

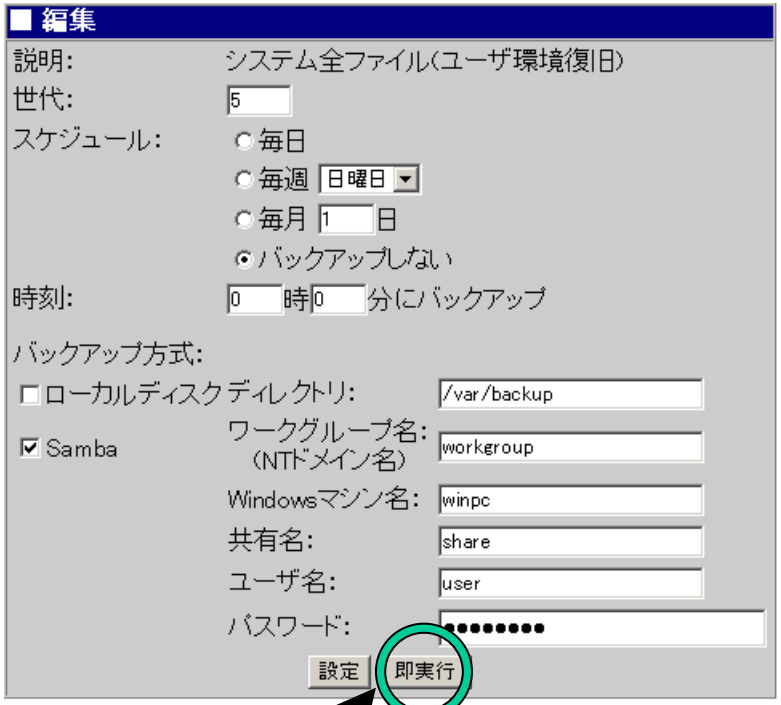


最後に[設定]ボタンをクリック

バックアップ例２：Windowsマシンへの即時バックアップ（1/2）

即時バックアップは、定期バックアップの操作とほぼ同じです。異なる点は、Management Consoleの設定中以下の画面で「世代・スケジュール」の設定を行わないこと、最後に「即実行」ボタンをクリックすることです。

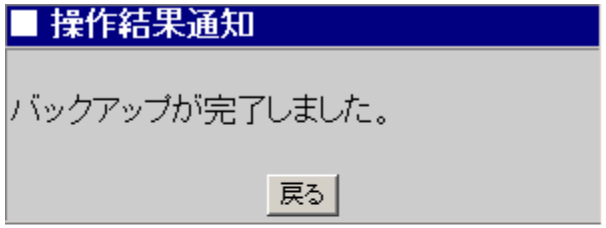
世代・スケジュールを設定しない



最後に「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例２：Windowsマシンへの即時バックアップ（2/2）

「即実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



注意

「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル（ユーザ環境復旧）」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でバックアップを行う必要があります。

バックアップ例3：テープデバイスへの定期バックアップ（1/2）

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、
Management Consoleから以下の操作を行って下さい。

①
システム

②
バックアップ／リストア

③
テープバックアップ

バックアップ例3：テープデバイスへの定期バックアップ（2/2）

以下の内容を入力して下さい。

テープデバイス名を指定する

■ テープデバイス
デバイス名
/dev/nst0
設定

■世代・スケジュールの設定

例：毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。

■ バックアップ
スケジュール：
○ 毎日
◉ 毎週 月曜日
○ 毎月 日
○ バックアップしない
時刻： 9 時 0 分にバックアップ
バックアップ対象
☑ システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
☐ システム、各種サーバの設定ファイル
☐ ユーザのホームディレクトリ
☐ メールスプール
☐ メーリングリスト
☐ 各種ログファイル
☐ ディレクトリ指定
設定 即実行

ここをチェックする

必要であればチェックする

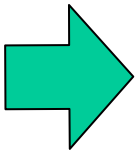
最後に「設定」ボタンをクリック

バックアップ例4：テープデバイスへの即時バックアップ（1/3）

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、
Management Consoleから以下の操作を行って下さい。

①
システム

②
バックアップ／リストア



③
テープバックアップ

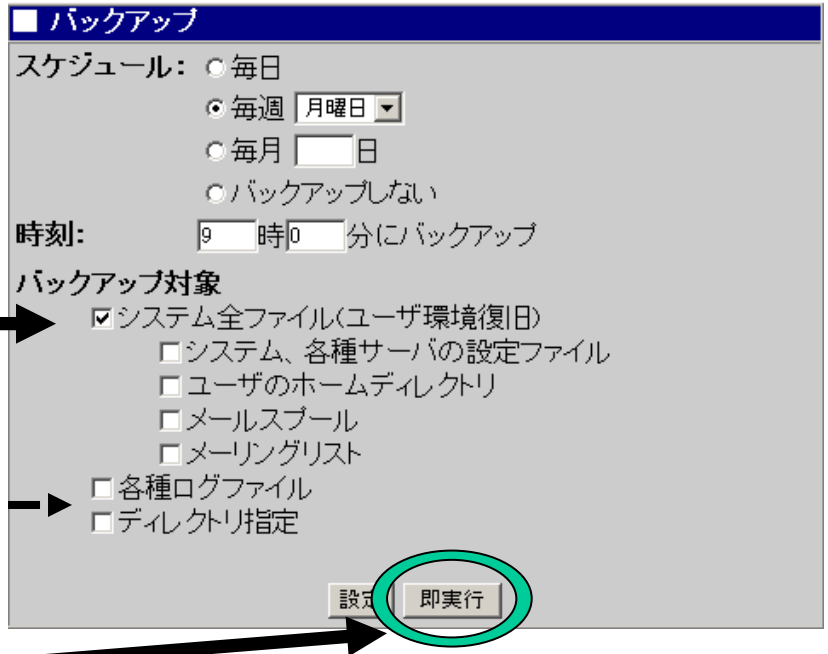
バックアップ例4：テープデバイスへの即時バックアップ（2/3）

バックアップを実行します。

テープデバイス名を指定する

ここのみチェックすればよい

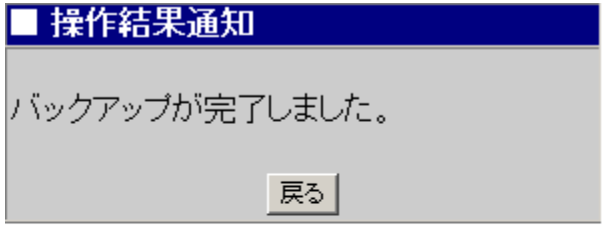
必要であればチェックする



「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例４：テープデバイスへの即時バックアップ（3/3）

「実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



バックアップの補足事項（1/2）

１．「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル（ユーザ環境復旧）」に含まれていませんので、必要に応じて「各種ログファイル」をバックアップする必要があります。

２．「システム全ファイル（ユーザ環境復旧）」のバックアップは、

- システム、各種サーバの設定ファイル
- ユーザのホームディレクトリ
- メールスプール
- メーリングリスト

の項目をバックアップすることと同じ意味になります。
両方の項目を指定すると、二重にバックアップされますので領域/時間の無駄が発生します(動作上の問題はありません)。
ただし、ロードバランスクラスタ構成の場合、メールスプールとメーリングリストは含まれません。

バックアップの補足事項（2/2）

３．ESMPRO関連の情報はバックアップされません(リストアによる動作が保証されていないためです)。
したがってESMPRO関連の設定については、システムの再インストール後、ユーザーズガイドに従い改めて行って下さい。

４．バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前にアップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいて下さい。